

都市再生整備計画 事後評価シート
北大河原地区

平成30年5月

京都府 南山城村

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	京都府	市町村名	南山城村	地区名	北大河原地区			面積	1,430ha
交付期間	平成24年度～平成28年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	181	国費率	0.4		

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(ふれあい交流広、耐震貯水槽、防災備蓄倉庫)、高質空間形成施設(修景・ベンチ・モニュメント)、高次都市施設(観光交流センター、まちおこしセンター)							
		提案事業	地域創造支援事業(商品・サービスの開発、研究)							
	当初計画から削除した事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
		基幹事業								
		提案事業	地域振興施設	収益性の高い事業であるため除外。単独費で整備。			影響なし。			
			コミュニティバス駐車場	他事業で実施するため除外。			影響なし。			
案内標識	他事業で実施するため除外。			影響なし。						
新たに追加した事業	基幹事業									
	提案事業	交流イベント			他事業及び自主開催としたため除外。			影響なし。		
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
	変更									

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	従前値	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
指標1	南山城村の年間交流人口	千人/年	46	H24	50	H29	382	○	あり なし	地域情報発信や地域の魅力の紹介等により、交流人口が増加した。	
指標2	南山城村産商品開発数	品	0	H24	30	H28	39	○	あり なし	商品の開発、製造、販売を一環して関わることで農家・地域の活性化が図られた。	
指標3	イベント開催数	回	5	H24	10	H29	14	○	あり なし	地元や移住者が主体となったイベントが実現した。	

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	従前値	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
その他の数値指標1											
その他の数値指標2											

4) 定性的な効果発現状況

- ・ワークショップ等の開催により、地域住民の参画や地元による主体的運営意識の醸成が図られ、地域の新たな女性加工グループの設立につながった。
- ・住民及び地域団体において、地元食材等を使用した新たな商品開発が進み、京丹波ブランドの向上につながった。

5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
モニタリング			都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	商品開発、運営準備としてワークショップを開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた		● 株南山城が主体となり住民及び地域団体との連携を図る。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	株南山城の設立		都市再生整備計画に記載し、実施できた		● 当該施設を拠点とし、地域特産品開発、農業振興、都市農村交流を、株南山城と行政、住民が連携し地域活性化を図る。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式2-2 地区の概要

曽根地区都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標 「村で暮らし続ける」ために必要な交流とふれあいの拠点づくり 目標 1 基幹産業である農業(茶業)を軸にした持続可能な農業・産業の拠点づくり 目標 2 支えあい暮らし続ける仕組み、「絆が支える地域づくり」 目標 3 南山城村の情報、魅力を発信することで次世代担い手の呼び込み、定住を促進する 目標 4 災害時の緊急避難施設等としての機能づくり	南山城村の年間交流人口	単位:千人/年 46 H24	50 H29	382 H29
	南山城村産商品数	単位:品 0 H24	30 H28	39 H28
	イベント開催回数	単位:回/年 5 H24	10 H29	14 H29



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・村で暮らし続けるため仕組みづくりの核として機能を担い、当施設への来場により交流人口が拡大。 ・観光交流・スペースでの特産品のPR、地域情報発信により、他施設への誘導を図ることで地域へ都市住民が訪れている。 ・地域ブランドの発信、新たな特産品開発がきっかけで地元産農産物の消費拡大と地域雇用が創出された。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市農村交流を継続することで、定住促進に向けて地域情報の発信や体験などを通じて、都市農村交流を継続させることで、移住・定住の促進、南山城村を全国発信する。 ・引続き地域特産品を開発する取組みを継続し地元産農産物等を使用したオリジナル商品を開発と南山城村ブランドの向上に取り組む。 ・道の駅を核に開発した商品を全国発信することで、地域雇用継続と農林業の活性化に取り組み、「村で暮らし続ける」を実現する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
道路									
道路									
公園									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	ふれあい交流広場、地域防災施設	218		96		関連事業での整備による見直し	影響なし	●	
高質空間形成施設	モニュメント	21		8		整備コストの見直しによる	影響なし	●	
高次都市施設	ふれあい交流センター	358		344		整備コストの見直し及び関連事業での実施による	影響なし	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		基準年度		目標年度				あり	なし	
指標1	南山城村の交流人口	千人/年	本村が調査する平成29年観光入込み客数データで来訪者数を計測する。	39	H18	46	H24	50	H29	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定 ● 見込み	382	事後評価	○
指標2	南山城村産商品数	品	平成29年4月時点の南山城村産の農産物を原材料で製造した商品数をカウントする。	2	H18	0	H24	30	H28	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定 ● 見込み	39	事後評価	○
指標3	イベント開催回数	回	平成29年度に村内で都市農村交流及び移住促進をテーマに開催したイベント数をカウントする。	5	H18	5	H24	10	H29	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定 ● 見込み	14	事後評価	○
指標4										モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定 見込み		事後評価	
指標5										モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定 見込み		事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	施設整備が期待以上のPR効果となり目標を達成することが出来た。	
指標2	当該施設の開設に合わせて特産品開発に取り組んだ結果、目標を達成出来た。	
指標3	都市農村交流、移住促進をテーマとしたイベント計画により、目標を達成することが出来た。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標3							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

WS等の開催により、世代間を越えた地域交流や移住者との連携が生まれた。結果、商品開発や地域のブランド化が図られ地域が活性化した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
商品開発・運営準備で行ったワークショップ	予定どおり実施した	●	【実施頻度】計12回 【実施時期】H25年度～H27年度 【参加人数】30人 【実施結果】商品開発、地域のブランド化や運営、施設整備に関して住民が主体となり取組めた。	住民及び地域団体との連携による地域活性化を図るため、今後も住民の意見を反映して施設運営に取り組む。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
村で暮らし続けるために必要な仕掛けとして、持続可能な農業、産業の拠点となる組織づくり(地域の商社的な役割を担う組織)	予定どおり実施した	●	移住者、地元によるWSを平成25年度～平成27年度まで実施。イベント等の開催、商品開発、消費拡大を実施	当該施設を拠点とし、地域特産品開発、農業振興、都市農村交流を、(株)南山城と行政、住民が連携し地域活性化を進める。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	副村長、関係課長、関係課担当職員(総務課、村づくり推進課、産業生活課、建設水道課)9名	H24~H28 10回開催	建設水道課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3			
指標名		南山城村の交流人口	南山城村産商品数	イベント開催回数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設	◎	施設整備により、地域情報、観光情報や特産品のPR等が可能となり、来訪者の増加とともに本施設を拠点として多くの来訪者が地域を訪れた。	○	当該施設の開設に合わせて、商品開発に取り組んだ結果、地元産農産物を原材料とした加工品等の商品化が実現した。	◎	当該施設を活用したイベントが、住民や地域団体との連携により実施された。
	高質空間形成施設	◎		○			
	高次都市施設	◎		◎			
提案事業	商品・サービス開発	○		◎		◎	
	関連事業	地方道路交付金事業・国道163号北大河原バイパス		◎		○	
地方道路交付金(府代行)事業・村道大河原東和東線		○		○		◎	
防災・安全交付金(公安)事業・国道163号今山交差点		◎		○		◎	
地方道路交付金(公安)事業・道路休憩施設		◎		○		○	
地方道路交付金(公安)事業・案内標識		◎		◎		◎	
農山漁村振興交付金・即売施設、地場産品振興施設		◎		◎		◎	
コミュニティコンビニ整備事業・地域振興施設(村民百貨店)		◎	○	○			
交流イベント	◎	◎	◎				

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- －：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	住民や地域団体との連携による交流人口の拡大に取り組む。	今後も継続的な特産品開発に取り組む。	今後も継続的にイベントを実施し、地域の魅力を発信する。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別													
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- －：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	各課課長、村づくり推進課、産業生活課、建設水道課 8名 アドバイザーとして(株)南山城 森本社長が参加	平成30年6月	むらづくり推進課・建設水道課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
南山城村の交流人口	交流人口の拡大による来訪者の増加と南山城村のPRが図られた。		<ul style="list-style-type: none"> 当施設への来訪者が想定を上回る結果となったが、引き続き地域情報の発信や特産品のPRを行うことで、継続的な来訪者数維持。 当施設を拠点とした地域へ足を運んでもらえる仕組みを構築する。 特産品である茶をはじめ地域の農産物を原材料とした商品開発を継続させることで、持続可能な農業と地域産業の確立を図り、村で暮らし続ける仕組みを構築させる。
南山城村産商品数	特産品の開発により品数が増加した。		
イベント開催回数	イベント回数が増加した。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	南山城村の交流人口の拡大	当施設を拠点とした地域情報発信、PRにより継続的な来訪者の確保に努める。	当該施設が中心となった地域情報発信、PR等。
	南山城村産特産物の全国展開	(株)南山城を中心に商品開発を継続すると共に、消費拡大活動、販路開拓で農業と地域雇用の安定化を図る。	物産展、消費拡大イベント等への参加。
	地域イベント回数増加	移住者や地元住民が自主開催する地域イベントの開催で村の暮らしや文化に触れる。	地域住民、移住者や運営者が連携したイベントの開催。

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	継続的な来訪者数の維持とリピーター確保	各地域を開催地とするイベントで当施設から各地域へ来訪者を誘導し、地域住民との交流促進を図る。	体験イベントの開催。 移住体験プログラム。 当施設を活用した地域情報の発信。
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	南山城村の交流人口	千人/年	46	H24	50	H29	確定 ●	382	○	あり	→			
							見込み			なし				
指標2	南山城村産商品数	品	0	H24	30	H28	確定 ●	39	○	あり	→			
							見込み			なし				
指標3	イベント開催数	回	5	H24	10	H29	確定 ●	14	○	あり	→			
							見込み			なし				
指標4							確定			あり	→			
							見込み			なし				
指標5							確定			あり	→			
							見込み			なし				
その他の数値指標1							確定			あり	→			
							見込み			なし				
その他の数値指標2							確定			あり	→			
							見込み			なし				
その他の数値指標3							確定			あり	→			
							見込み			なし				

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット					むらづくり推進課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	活動報告会	平成28年3月11日			

住民の意見	開発商品についての批評。(美味しい。クオリティをあげる必要がある。) 施設を核とした販路開拓への要望(ネット販売)				
-------	--	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員					
その他の委員					

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。